

東島根中校長雑感

足立区立東島根中学校

令和5年4月10日 令和5年度 第1号

共に学ぼう（入学式 式辞より）

校長 大瀧 訓久

今年度も、校長は大瀧訓久、副校長は横林泰介が務めさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。さて、今年は104名・3クラスの新入生を迎えました。全学年3クラスの合計9クラスになります。新しい友達との出会いを大切にして、それぞれ楽しいクラスを作り、豊かな人間関係を築いていってほしいと思います。入学式の式辞では、以下のような話をしました。それでは、令和5年度も宜しくお願いいたします。

新入生の皆さん。今から12年前、平成23年3月11日の東日本大震災の被害を受けた中学校で、数ヶ月後に登校を再開した時、ある先生が生徒たちに次のように語りかけたそうです。

「君たちは災害で避難し、困難な生活をしています。今は、周りから「かわいそう」「大変だね」と同情されることでしょう。でも、君たちの将来なんて誰も保証してくれません。五年後十年後の入学試験や就職試験で「被災したからしょうがないね」とは誰も言うてくれなくなるのです。今、君たちにできることは何でしょう。それは、勉強です。この地を立て直すには五年や十年はかかります。ひょっとしたら二十年かかるかもしれません。その時に、皆さんはこの地を背負って立つ若者になっているのです。この地を立て直すには、莫大なお金と知恵が必要です。だから皆さんはその知恵を身に付けなければならないのです。今、皆さんがやらなければならないことは勉強なのです。」

私は、この記事を読んだとき、衝撃をうけました。この先生が言った言葉はとても重い言葉です。表面的な同情ややさしさではなく、心を振り絞って、生徒にとって本当に大切なことを伝えた言葉だと思います。同じ教員として、また親として、被災した生徒やわが子に対して、自分だったら言えたかどうか……。被災地で日々頑張っている人だからこそ言えた言葉だと思います。

しかし、この先生の言葉は、皆さんにも当てはまることなのです。皆さんは十年後二十年後に二十代・三十代の若者になっています。日本を背負って立つ若者になっています。けれども、その将来は誰も保証してくれません。自分で切り拓いていくしかないのです。そのために皆さんが、今できること、やらなければならないことはやはり勉強なのです。皆さんは、将来どんな職業に就くかまだ決まっていません。そして、今学校で学んでいる勉強が、自分の人生の中でどの様にかかわってくるか、全くわからないのです。だからこそ、皆さんが今やらなければならないことは勉強です。勉強をすると、様々な知識を身に付けることができます。また、得意教科を勉強すると自信がわきます。不得意教科を諦めずに勉強すると忍耐力が身に付きます。実技教科を勉強すると体力・豊かな感性・生活力が向上します。さらに、運動会・合唱コンクール・部活動・生徒会活動などに積極的に取り組むと、集団での達成感・コミュニケーション能力、社会性を身に付けることができます。中学生の時でなければ、学び、身に付けられないことがたくさんあります。そうした積み重ねが、これから生きていくうえでの知恵となります。学校での一時間一時間の授業を大切にしてください。将来、仕事に就いても、毎日がその仕事の勉強です。お父さん、お母さんに聞いてみてください。

私たち教職員も毎日、職員室や教室・準備室などで勉強しています。

今日から三年間、私たちと一緒に勉強していきましょう。

今後の予定

- | | |
|------------------------------------|-------------------------|
| 4月12日(水) 給食始 | 19日(水) 歯科健診(1・2年)、避難訓練 |
| 13日(木) 区学力調査(全学年)、部活動説明会 | 20日(木) 全国学力調査(英語3)、中央議会 |
| 14日(金) 区中研一斉部会(給食なし) | 24日(月) 生徒集会(認証式) |
| 15日(土) 土曜授業、個人写真撮影、
セーフティー教室 | 26日(水) 歯科健診(2・3年) |
| 17日(月) 全校朝礼、専門委員会 | 27日(木) 小中連携研修(全体・東島根中) |
| 18日(火) 全国学力調査(3年)、保護者会(2・3年) 午後3時~ | 28日(金) 心臓検診(1年) |